

## MOTOR SPORTS REPORT

### 2016 Nurburgring 24 hours Race/ニュルブルクリンク 24 時間レース

2016 年も日本の主要ワークスチームへライティングシステムを供給！

ニッサン GT アカデミー・チーム RJN の GT-R ニスモ GT3 が日本車最上位の 11 位で完走

トヨタ GAZOO Racing は SUV の C-HR レーシングがクラス 3 位、現地で注目を集める！

トムスとコラボのレクサス RC F は SP-PRO クラスを制覇



Nissan GT Academy Team RJN : Nissan GT-R nismo GT3



TOYOTA GAZOO Racing with TOM'S : LEXUS RC F



TOYOTA GAZOO Racing : LEXUS RC



TOYOTA GAZOO Racing : C-HR Racing

## ■概要/Outline

2016年のニュルブルクリンク 24 時間レース（以下、ニュル 24 時間）が 5 月 26 日～29 日、1 周・約 25km のニュルブルクリンクを舞台に開催。2011 年よりニュル 24 時間に公式参戦を開始している PIAA は今大会においても「トヨタ GAZOO Racing」のレクサス RC、トヨタ CH-R レーシング、「トヨタ GAZOO Racing with トムス」のレクサス RC F をサポートするほか、「ニッサン GT アカデミー・チーム RJN」および「チーム・ザクスピード」のニッサン GT-RGT3、さらに「シュルツ・モータースポーツ」のニッサン GT-R ヘライティングシステムを供給しており、テクニカルサプライヤーとして過酷な 24 時間レースに参戦した。

計 158 台を集めた 2016 年の大会も序盤から脱落者が続出するサバイバルレースが展開されることとなったが、ニッサン GT アカデミー・チーム RJN の 35 号車、ニッサン GT-R GT3 が日本車最上位となる総合 11 位で完走。残念ながらザクスピードの 24 号車、ニッサン GT-RGT3、シュルツ・モータースポーツの 48 号車、ニッサン GT-R、さらにトヨタ GAZOO Racing の 188 号車、レクサス RC は予想外のトラブルでリタイアに終わるものの、トヨタ GAZOO Racing with トムスの 36 号車、レクサス RC F が総合 24 位で完走を果たし、SP-PRO クラスで勝利を獲得している。そのほか、同チームの 326 号車、C-HR レーシングも総合 84 位、SP2T クラスで 3 位完走を果たすなど、2016 年の大会においても多くのユーザーが上位に食い込むことによって、PIAA のパフォーマンスを証明した。



Team Zakspeed : Nissan GT-R nismo GT3



Schulze Motorsport : GT-R nismo GT3

## ■ニュルブルクリンク 24 時間レースの特徴 / About Nurburgring 24 Hours Race

ドイツ中西部のアイフェル山中のサーキット、ニュルブルクリンクを舞台に開催される 24 時間の耐久レースで、もともとは 1970 年にドイツの自動車連盟、ADAC が主催するローカルイベントとしてスタートした。しかし、90 年代に入ると数多くの自動車メーカーやパーツメーカー、タイヤメーカーがワークスチームを投入するようになり、近年は参加台数で 150 台オーバー、観客動員数で 20 万人を数えるビッグイベントに発展し、ル・マン 24 時間レースに次ぐ人気の耐久レースとして定着している。

舞台となるニュルブルクリンクは 1927 年に建設されたサーキットで、約 20km の北コースと約 5km のグランプリコースを組み合わせた全長 25km のロングコースとなっているのだが、その最大の特徴がノルドシュライフェと呼ばれる北コースだ。ノルドシュライフェは約 20km の距離もさることながら、コーナー数も 180 以上と言われ、超高速から超低速までそのバリエーションは多彩。さらに路面はバンピーで天候が変わりやすいことから、コースの西側がドライでも東側がウエット……といったことも珍しくはない。

加えて照明設備がほとんどないことからナイトセッションではライティングシステムが重要で、ランプの明るさがタイムに直結する。さらに、他車との接触を回避するうえでも高性能なランプが必須で、しかも、軽量かつコンパクトなシステムが求められていることから、PIAA は正式参戦を開始した 2011 年より専用スペックを開発している。



キャンピングカーで Nur24h Week を楽しむ 日没後は照明設備が無くライティングが重要

2011 年は GAZOO Racing をサポートしており、2 台のレクサス LFA へ左右 6 灯の専用ライティングシステムを供給、サポート 2 年目の 2012 年には LFA が過去最高の総合 15 位で SP8 クラスを制覇している。さらに同チームが投入した 2 台のトヨタ 86 にもヘッドランプチューン、ドライビングランプを供給しており、166 号車が SP3 クラスで勝利を飾る。その後も 2013 年には軽量化を果たすべく、LFA に左右 4 灯の最新システムを投入するほか、86 にも横方向の照射を重視したランプを採用。さらに 2014 年には先行開発モデルの LFA コード X が日本車最高位となる総合 11 位で SP-PRO クラスを制するほか、LFA が SP8 クラス、86 が SP3 クラスを制するなど GAZOO Racing が 3 冠を達成したことは記憶に新しい。そのほか、2015 年の大会ではトヨタ GAZOO Racing のレクサス LFA コード X が SP-PRO クラスで 2 連覇を達成した。



2011 年 LEXUS LFA



2012 年 TOYOTA 86

一方、トヨタ GAZOO Racing のほか、2012 年にはチームニッサン GT-R の 23 号車、チーム GT アカデミーの 123 号車もサポートしており、2 台のニッサン GT-R にライティングシステムを供給。SP8T クラスで 1-2 フィニッシュを達成したのだが、この実績が高く評価されたのだろう。ニッサンは 2013 年より GT-R の GT3 仕様車のナイトセッション用キットパーツとして PIAA のランプシステムを採用しており、2013 年の大会ではシュルツ・モータースポーツの 123 号車が予選、決勝ともに好タイムを連発したほか、2014 年にはニッサン GT アカデミー・チーム RJN の 2 台が予選で猛威を發揮している。2015 年にはニッサン GT アカデミー・チーム RJN の 35 号車・GT-R が日本車最上位となる総合 9 位に入ったことも PIAA のニル 24 時間レース挑戦の歴史において欠かすことのできないエピソードと言えるだろう。



2012 年 Nissan GT-R



2014 年 Nissan GT-R nismo GT3

ニル 24 時間に出場した各チームおよび各ドライバーは明るさ、色、配光ともに PIAA のライティングシステムを高く評価。そのパフォーマンスはライバルチームやコースサイドで撮影するカメラマンが驚くほどで周囲の注目を集めている。

## ■レースレポート/Race Report

年に一度の祭典、ニル 24 時間が 5 月 26 日～29 日、ドイツ北西部のサーキット、ニルブルクリンクで開催。今年で 44 回目の開催を迎えた 2016 年の大会にも計 151 台がエントリーしており、世界各国から自動車メーカーやパーツメーカー、タイヤメーカーのワークスチーム、サテライトチームが集結した。

もちろん、国内外のモータースポーツで活躍する PIAA もサプライヤーとして過酷な 24 時間レースにチャレンジ。今大会より ECE 基準対応のランプ装着が義務付けられたことから、PIAA も国内メーカーのワークスチームを中心に ECE 基準対応のランプを供給した。



Nissan GT-R nismo GT3 with PIAA Lamps



TOYOTA C-HR Racing with PIAA Lamps

なかでも素晴らしいパフォーマンスを見せたのが、ニッサンのワークスチームとして GT-R を最高峰クラスの SP9 に投入したニッサン GT アカデミー・チーム RJN だった。大会独自の性能調整でリストラクター径が縮小されたことから、26日のフリー走行で30位、同日の1回目の予選でも35位と低迷するほか、翌27日の2回目の予選も32位で完走。同日のトップ30予選も24位に伸び悩むものの、星野一樹選手/ミハエル・クルム選手/アレックス・バンコム選手/ルーカス・オールドネス選手が駆る35号車は決勝で脅威の追い上げを披露した。



スタート前のスターティンググリッドはファンで埋め尽くされる！



Race Start! : Mercedes, BMW, AUDI, PORSCHE, BENTLEY, NISSAN, LEXUS, SUBARU・・・

2016年の大会は曇天の空の下、28日の15時30分にスタートを切るものの、1時間もしないうちに天候が急変し、ニュルブルクリンクの周辺を激しい雨が襲った。やがて、その雨は雹(ひょう)へと変わり、コースの一部を覆い尽くしたことから足元を救われた十数台によって多重クラッシュが発生。事故車両がコースを塞ぎ、立ち往生するマシンが続出したことからレースは赤旗で中断されることとなった。



スタート約1時間で天候急変し、雹(ひょう)まで！



クラッシュ多発により赤旗中断

まさに波乱含みの展開となるなか、約3時間後にレースは再スタート。この混乱をかいくぐったニッサンGTアカデミー・チームRJNの35号車は安定した走りを披露している。計16回のピット作業もスムーズで、マシンもトラブルに見舞われることなく、24時間の厳しい戦いを走破。残念ながら同じニッサン勢としてSP9クラスに24号車、GT-R GT3を投入するザクスピード、SP8Tクラスに48号車GT-Rを投入するシュルツ・モータースポーツは、それぞれマシントラブルでリタイアすることとなったが、ニッサンGTアカデミー・チームRJNの35号車は計129周でチェッカーを受け、日本車勢の最上位となる総合11位で完走を果たした。



Night Session of Nur24h



Goal !!

一方、2007年の初参戦以来、今大会で10周年を迎えるトヨタの社員チーム、トヨタGAZOO Racing、ならびにレーシングチームのトムスがサポートするトヨタGAZOO Racing withトムスも素晴らしい走りを見せている。なかでも素晴らしいパフォーマンスを披露していたのが、トヨタGAZOO Racing withトムスの36号車、レクサスRC Fだと言えるだろう。

同モデルはSP PROクラスをターゲットに開発されたマシンで、GT3モデルに迫るスピードを披露。ドライバーも土屋武士選手/片岡龍也選手/大嶋和也選手/井口卓人選手らプロドライバーで、予選こそ36位に留まることとなったが、波乱の決勝では安定した走りを披露している。その結果、トヨタGAZOO Racing withトムスの36号車、レクサスRC Fは121周でチェッカーを受け、総合24位で完走。SP-PROクラスで勝利を獲得しており、トヨタGAZOO Racingとしてはクラス3連覇を達成した。



またトヨタGAZOO RacingがSP2Tクラスに投入した326号車、トヨタC-HRレーシングも2016年の大会で注目を集めた一台で、その期待に応えるかのように素晴らしい走りを披露している。同モデルは今年末に市販が予定されているトヨタのコンパクトSUV、C-HRをベースに開発された競技仕様車ながら、車両開発の一環として数多くの部分で市販パーツを流用。そのため、広大なニュルブルクリンクでは予選で148位とスピード不足の感否めないものの、影山正彦選手、佐藤久実選手らレーシングドライバーに加え、トヨタの車両

評価ドライバーの片山智之選手、トヨタモーターヨーロッパの車両評価ドライバー、ハーヴィック・ダエネンス選手らが決勝で安定した走りを披露している。29日の早朝にガス欠でストップするシーンこそあったが、326号車、トヨタC-HRレーシングは順調にラップを消化していった。その結果、326号車は97週目でチェッカーを受け総合84位で完走。改造範囲の狭いマシンながらSP2Tクラスで3位に着けたことは賞賛に値する。



Night Session of Nur24h

TOYOTA C-HR Racing

なお、木下隆之選手／松井孝充選手／蒲生尚弥選手のドライビングでSP3Tクラスに挑んだ188号車、レクサスRCはレース序盤で駆動系にトラブルが発生。11時間の修復作業を経てレースに復帰するものの、残り1時間半で再びピットイン、懸命な修復作業も及ばず残念ながらリタイアに終わることとなった。



このように明暗を分けることとなったが、2016年のニュル24時間においても各クラスでPIAAのサポートチームが活躍。いずれも各ユーザーがデイセッションと比べて、ナイトセッションでもタイム落ちの少ないラップを重ねたことでPIAAの技術力を改めてアピールした。